

平成30年度進行管理・評価シート
 佐川町歴史的風致維持向上計画（平成21年3月11日認定）
 （最終変更平成26年3月31日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)		
1 庁内会議及び佐川町歴史的風致維持向上計画協議会の開催	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)		
1 対策と連携による今後の措置	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 まちの駅活性化事業(協議会活動助成事業)	3
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について	4
2 文化財の保存及び活用の普及・啓発について	5
3 文化財の防災について	6
4 埋蔵文化財の取り扱いについて	7
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)		
1 深尾家の現当主と交流	8
2 広井勇銅像 郷里の佐川に	8
3 広井勇銅像 郷里の佐川に	8
4 明治の面影 受け継ぐ	9
⑥その他(効果等)(様式1-6)		
1 歴史まちづくりによる観光客の増加	10
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	11

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	30年度 現在の状況
庁内会議及び佐川町歴史的風致維持向上計画協議会の開催		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 佐川町歴史的風致維持向上計画を円滑かつ着実に遂行するために、計画推進体制(事務局と審議組織との連携)を強化し、歴史的風致維持向上計画協議会の活動をサポートしていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成28年度より毎月第3木曜日に庁内定例会議を実施してきたが、平成30年度の主な協議事項は第2期計画の策定であったため、進行の状況に合わせて庁内会議を実施した。庁内会議は年間6回、佐川町歴史的風致維持向上計画協議会は1回開催した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	平成30年度については、事業の進行状況に応じて庁内会議を実施したため、会議の回数は前年度より少なくなりました。平成31年度以降は第2期計画期間となるため、再び定期的に庁内会議を実施し、協議会全体の歴史まちづくり事業に対する認識を高めしていくことが課題である。

状況を示す写真や資料等



庁内会議

平成30年 4月19日
 平成30年 5月30日
 平成30年 7月19日
 平成30年 8月29日
 平成30年 10月12日
 平成30年 10月31日

庁内会議の様様



第1回協議会の様様

佐川町歴史的風致維持向上計画協議会

第1回(平成31年1月21日)

◇協議事項

- (1)佐川町歴史的風致維持向上計画(第2期)について
- (2)JR客車の移設について(佐川町にゆかりのある準鉄道記念物を重点区域内に移設することについて)

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

		評価対象年度	30年度
項目		現在の状況	
施策との連携による今後の措置		<input type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	街なみ景観条例は、平成5年度から10年間実施した街なみ環境整備事業に対応して策定したものであり、歴史的風致維持向上計画に合致した内容となっていないという問題点がある。そのため、今後においては、景観法に基づく景観計画及び景観条例の策定をめざすことにより、歴史的風致に合致した街なみ景観の維持向上を図ることとする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
平成29年度予算に「景観計画の策定」費用を計上し、庁内会議において協議したが、佐川町の街なみ及び重点区域の規模を考えると、景観を損ねるような建造物が建つ可能性は低いと判断されることから、景観計画を策定するまでもないとの結論に達した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		現時点では景観計画を策定することよりも、既存の景観条例を時代に合ったものに改正・整備することを優先する。	
状況を示す写真や資料等			

評価軸③-1
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	30年度
まちの駅活性化事業(協議会活動助成事業)		現在の状況
		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成21年度～平成30年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容 住民主体によるソフト事業を実施し、重点区域を核とした歴史的風致を維持向上する活動をさらに他地域にまで広げると共に、町外にも広く発信する。また、歴史的建造物の保存・活用に向けての住民意識啓発の活動も併せて取り組むことで、竹村家住宅周辺の良好な市街地環境の形成に寄与し、佐川町の歴史的風致の維持向上を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

「竹村家土蔵」が登録有形文化財となったことからその旨を付記するために、「竹村家住宅」のリーフレットをリニューアルした。また、「旧竹村呉服店」のリーフレットの残部も僅少であることから、記載内容を修正しリーフレットの増刷を実施し、より一層の啓発活動が図られた。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
本町の歴史まちづくりは計画策定から10年が経過したが、対外的には認知度が高いとは言えないため、これまでの活動を継続していくことが必要である。また、協議会員の意識を高めていく取り組みも必要だと考える。

状況を示す写真や資料等



竹村家住宅リーフレット

竹村家住宅リーフレット



裏



旧竹村呉服店リーフレット

旧竹村呉服店リーフレット



裏

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	30年度
			現在の状況
文化財の保存・活用について 文化財の保存・活用に関わっている住民、NPO等各種団体について			<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
計画に記載している内容	現在、文化財の保存活用に携わる団体は積極的かつ地道な活動を展開しており、まちづくり行政等との連携も十分とれている。 今後も、こうした活動の前進を更に目指し、行政との連携も一層強化する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
重点区域内に移築された名教館では、佐川が輩出した偉人のパネルを展示し文教の町佐川をPRした。また、歴史学講座、高知大学出前公開講座等を開催し、文化財の活用に努めた。佐川高校地域学習では上町地区の歴史的建造物について観光ボランティアから説明を受けるなど文化財等についての学習を行った。国の登録有形文化財建造物に登録された旧竹村呉服店は1階部分を貸店舗、2階部分を一般公開するなど文化財の活用が図られている。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		NPO法人、観光協会は定期的にイベントを開催しており、集客数は増加傾向である。地元唯一の公立高校である佐川高校の地域学習も定着してきており、今後も観光ボランティア、観光協会と連携し、活発な情報配信と文化財の活用を図る。	

状況を示す写真や資料等



佐川高校地域学習でボランティアガイドから佐川の町なみの説明を受ける佐川高校1年生
H30.4.27



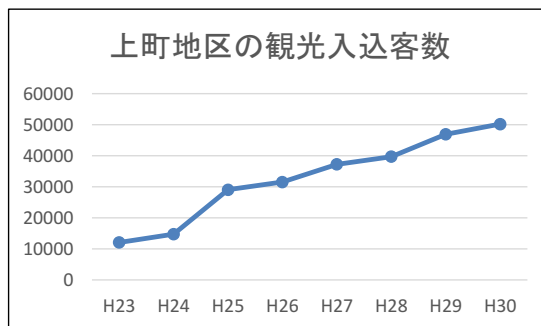
高知大学出前公開講座 名教館
H30.9.5~10.26 全4回
延べ 119人



上町で開催される酒蔵ロード劇場の会場として影絵を膾炙した竹村家土蔵
H30.11.17



平成30年3月に国登録有形文化財に登録され、店舗として活用されている「旧竹村呉服店」



評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	30年度
		現在の状況
文化財の保存及び活用の普及・啓発について		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 文化財の価値を町民がより理解し、保存や活用の意識を高めるため、学校教育では町独自の文化財教育・文化財見学会を実施し、社会教育等では文化財や町の歴史に関する教室の開催、分かりやすいパンフレットの作成による啓発活動などを行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

黒岩小学校で卒業生(高校生)も含めて、「太刀踊り子ども教室」を開催し、高知県の無形民俗文化財である「佐川町の太刀踊り」の継承に取り組んだ。他にも斗賀野小学校児童による花取踊り(町指定無形民俗文化財)や黒岩中学校で瑞応の盆踊り(県指定無形民俗文化財)に児童・生徒が取り組み、地域の行事などを通じて成果を披露し、地域の伝統芸能としての位置づけを高めた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

児童生徒が積極的に参加し、継承に取り組んでいるが、発表の場は地域内の行事に限られている。今後は、町内外のイベント等への参加及び披露する機会を増やすことを検討していく。

状況を示す写真や資料等



←「佐川町の太刀踊り」 県指定無形民俗文化財

黒岩地区の小中高生が積極的に参加し継承に取り組んでいる。
 11月3日の仁井田神社の秋の大祭で神事のあと太刀踊りを奉納している。
 小中学校の運動会や地域で開催されている城山まつりや黒岩地区で開催されている黒岩短縮マラソン大会でも披露している。



←「白倉神社花取踊り」 町指定無形文化財

斗賀野地区の小中学生が積極的に参加し 継承に取り組んでいる。
 11月12日の白倉神社の秋の大祭では保育園児が神輿を担いでおなばれを執り行い白倉神社で花取りを奉納後、見物人に餅投げを行うなど地域の祭りとして定着している。



←「瑞応の盆踊り」 県指定無形文化財

黒岩瑞応地区が中心となり、瑞応盆踊りを継承していくため、中学生の指導にあたっている。
 8月16日は、夏休みで夜間のため、中学生は個人参加としている。
 また、近隣の市町村との文化交流も行っている。

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	30年度
項目		現在の状況	
文化財の防火について		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容 現在も実施している所有者、地域住民、消防署、地区消防団が一体となった防火訓練を質・量ともに充実したものとしていく。加えて、「文化財防火デー」には、上記住民・団体及び文化財保護審議会委員等が各地区の文化財における消火訓練を実施しており、今後も継続していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

重点区域内には自主防災組織が設立されており、地域の防災についての意識も高い。文化財防火デーには、尾川地区で文化財を対象に消防署、消防団とともに初期消火訓練を実施し防火意識の向上を図った。
 また、文化財巡視パトロールなど、あらゆる機会を通じて、引き続き文化財の保存や防災の大切さについて関係者などに周知を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

南海地震の発生が予測されていることもあって、地域住民の防災について一定理解が高まっているが、今後も引き続き、各地区を回り、防災意識の啓発及び文化財に対する理解を深めてもらう活動を続けていく必要があると思われる。また、有形文化財の盗難や汚損等の被害にあわないよう防犯設備の設置を推奨し、所有者の意識改善等による防犯性能の向上を図る。

状況を示す写真や資料等



1月26日 文化財防火デーの防火訓練には地域住民、地元消防団、消防署、文化財保護審議会委員が参加し、消防署員の指導のもと、消防署への模擬通報、地元消防団による放水訓練、地域住民による消火器での初期消火訓練等を実施後、消防署から講評を受けた。
 また、実地訓練終了後には、文化財保護審議会会長より、文化財保護の重要性について説明を行い、参加者は熱心に耳を傾けた。



文化財防火デー 黒岩地区瑞応寺跡において火災発生を想定し、通報訓練等及び初期消火訓練を実施した。

評価軸④-4

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	30年度
項目		現在の状況	
埋蔵文化財の取り扱いについて		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
計画に記載している内容	機会あるごとに埋蔵文化財の持つ意義や重要性及び所在地を町広報やその他の方法により広く住民に周知する。		

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

町内の主要な埋蔵文化財については、年1回、2日にわたり巡視パトロールを行い保存状態を確認している。また重点区域内の佐川城跡については、平成28年10月12日に文化財保護審議会委員(巡視員)とともにパトロールを実施し、昨年度の写真の比較や、目視により保存状態に変化はないことを確認している。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	現在のところ埋蔵文化財について広く住民に周知するには至っていない。また、埋蔵文化財包蔵地である佐川城跡などの調査について専門的な職員が不在であることなどにより未着手となっている。今後、第2期計画期間で調査及び情報発信を検討していく。

状況を示す写真や資料等



佐川城跡

石積み部分には今のところ異常はみられないが、周辺の雑木による悪影響が発生しないよう伐採を順次、予定している。



佐川城跡縄張図

(平成29年度、佐川町教育委員会刊行「佐川町の文化財」より転載)

評価軸⑤-1
効果・影響等に関する報道

		評価対象年度	30年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等	
深尾家の現当主と交流	H30.4.19	高知新聞	
広井勇銅像 郷里の佐川に	H30.5.22	高知新聞	
学者にして画家、牧野	H30.5.28	高知新聞	

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

本年度は地元新聞に3回、全国紙に1回、佐川町の歴史まちづくり関連の記事が掲載された。特徴的なのは、佐川町が輩出した偉人に関する記事が取り上げられたことだ。これは、これまでの歴史まちづくりにより顕彰活動等が活発化し、歴史町さかわの意識が住民の中に徐々に醸成されはじめたからだと考えられる。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<p>□計画の進捗に影響あり</p> <p>■計画の進捗に影響なし</p>	<p>住民主導、住民発案の取り組みがもっともっと活発になるように、行政も支援していかなければならない。</p>

状況を示す写真や資料等



高知新聞 H30.4.19



高知新聞 H30.5.22



高知新聞 H30.5.28

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
明治の面影 受け継ぐ	H30.5.28	読売新聞

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

本年度は地元新聞に3回、全国紙に1回、佐川町の歴史まちづくり関連の記事が掲載された。特徴的なのは、佐川町が輩出した偉人に関する記事が取り上げられたことだ。これは、これまでの歴史まちづくりにより顕彰活動等が活発化し、歴史町さかわの意識が住民の中に徐々に醸成されはじめたからだと考えられる。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

住民主導、住民発案の取り組みがもっともっと活発になるように、行政も支援していかなければならない。

状況を示す写真や資料等



評価軸⑥-1
その他(効果等)

評価対象年度 30年度

項目

歴史まちづくりによる観光客の増加

計画に記載している内容 なし

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

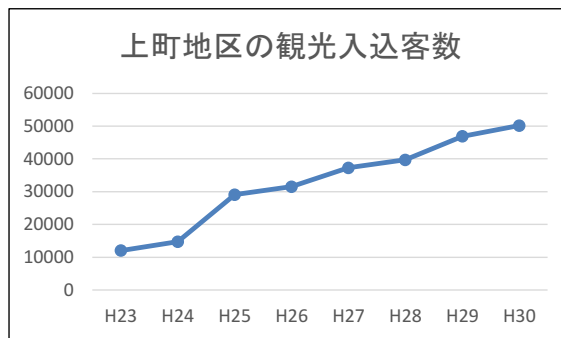
以前は、本町で観光といえば、3月下旬から4月上旬にかけての極めて短い花見の期間に限られていた。しかし、平成20年度に本計画を策定以後、事業が投下され、白壁の酒蔵や旧商家などの歴史的建造物の町並みが見直され、徐々に注目を浴びるようになってきた。その結果、この10年間で観光客数は約4倍に増加した。また、白壁の酒蔵や歴史的な町並みを活用した夜間イベント「酒蔵ロード劇場」には、約6000人の来場者で賑わっている。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



酒蔵ロード劇場の様子

酒蔵ロード劇場は白壁や歴史的な町並みを活用した佐川町の代表的なイベントのひとつである。白壁をスクリーンに見立てて、切り絵やイラストを投影するこのイベントは、H30年度で11回目を迎えた。



評価対象年度	30年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 佐川町歴史的風致維持向上計画協議会	
会議等の開催日時: 平成31年1月21日	
<p>(コメントの概要)</p> <p>委員A: 10年間で上町地区(重点区域内)は整備され、建造物等の資源が活用されはじめたことで観光客の満足度も高いと思う。</p> <p>委員B: 第1期計画では司牡丹酒造(株)の酒蔵の修復等の事業が完了しなかった。老朽化が進んでいるため、第2期計画でも継続して取り組むべきだ。</p> <p>委員C: 牧野公園が整備され、年間を通じて来訪者が増えた。なかでも桜の時期には非常に多くの観光客が訪れるため、公園だけでなくその周辺もあわせて整備してはどうか。</p>	
<p>(今後の対応方針)</p> <p>これまでの10年間の取り組みを今後も第2期計画として継続し、歴史的風致の維持向上を図る。第1期計画から残る主な課題としては司牡丹酒造(株)の酒蔵修復事業である。酒蔵は上町地区のシンボリックな建造物でもあるため、修復・保存・活用について多くの関係団体と協議し、事業を進めることとする。また、住民とともにやってきた牧野公園の整備を継続し、佐川城跡等の周辺施設と一体的な整備を進めていくこととする。</p>	